

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-333291

(P2007-333291A)

(43) 公開日 平成19年12月27日(2007.12.27)

(51) Int. Cl.	F I	テーマコード (参考)
<b>F 2 4 J 2/50 (2006.01)</b>	F 2 4 J 2/50	4 G 0 5 9
<b>C 0 3 C 17/23 (2006.01)</b>	C 0 3 C 17/23	5 F 0 5 1
<b>C 0 3 C 17/42 (2006.01)</b>	C 0 3 C 17/42	
<b>H 0 1 L 31/042 (2006.01)</b>	H 0 1 L 31/04	R

審査請求 未請求 請求項の数 18 O L (全 19 頁)

(21) 出願番号	特願2006-165034 (P2006-165034)	(71) 出願人	304028346 国立大学法人 香川大学 香川県高松市幸町1番1号
(22) 出願日	平成18年6月14日(2006.6.14)	(74) 代理人	100090697 弁理士 中前 富士男
		(74) 代理人	100139262 弁理士 中嶋 和昭
		(72) 発明者	小川 一文 香川県高松市林町2217番地20 国立 大学法人香川大学 工学部内
		Fターム(参考)	4G059 AA01 AC04 AC18 AC22 EA00 EA05 EB05 FA01 FA05 FA28 FB03 GA01 GA02 GA05 GA16 5F051 AA05 BA18 DA03 EA18 FA04 FA06 FA23 GA06 GA16 GA20

(54) 【発明の名称】 太陽エネルギー利用装置とその製造方法

(57) 【要約】

【課題】 太陽エネルギー利用効率の向上と、汚れによる経時劣化の防止が可能な太陽エネルギー利用装置及びその製造方法を提供する。

【解決手段】 光入射側透明基材1の表面が、表面に結合固定された撥水撥油性の透明微粒子5で覆われていることを特徴とする太陽エネルギー利用装置、及び、一端に第1の官能基を有する反応性透明微粒子9を製造する工程Aと、一端に第1の官能基と反応して共有結合を形成する第2の官能基を有する反応性透明基材4を製造する工程Bと、反応性透明微粒子9と反応性透明基材4とを接触、反応させ反応性透明微粒子9が表面に結合固定した透明基材10を製造する工程Cと、透明基材10の表面に結合固定された透明微粒子5の表面に撥水撥油性被膜16を形成する工程Dとを含む太陽エネルギー利用装置の製造方法。

【選択図】 図3

